

# 山田 悦子（やまだ・えつこ）

## 1、プロフィール

昭和 52 年 8 月、木俣修主宰の「形成」に入会。平成 5 年、「形成」解散。平成 6 年、大西民子・持田勝穂主宰の「波濤」に入会。第一同人。

<生没>

1929(昭和 4)年 8 月 14 日 ~ 2025(令和 7)年 3 月 25 日

<代表作>

歌集『野にあるやうに』(短歌新聞社・刊)平成 9 年 9 月発行。

<青森との関わり>

下北郡川内町に出生。むつ市在住。「菖苑短歌会」を主宰した。

## 2、作家解説

昭和 4 年 8 月 14 日、下北郡川内町に父長内美佐雄、母サトの長女として生まれる。長内家は「いなる丸」という商船に乗船して、津軽より川内に移住した。生家は「美生堂」という薬局を経営し、父は郵便局に勤務していた。

悦子は昭和 19 年 3 月、川内国民学校高等科卒業後、大湊軍需工場へ集団就職した。昭和 20 年 8 月終戦。この年、悦子は 15 歳であった。

昭和 23 年 10 月大湊高校川内分校開校にともない入学。27 年 3 月卒業。上京して、昭和女子大学国文科に入学。ここで教授木俣修より、万葉集・古今集・新古今集・近代短歌の講義を受け、深く感銘した。木俣は夏休みの課題として、一日一詠を課し、これによって悦子は、初めて短歌 50 首を詠んだ。

卒業論文の主題を「石川啄木の遺跡巡礼」とした悦子は、啄木の知人を訪問したり、歌碑を巡り歩き、多くのことを学んだ。とりわけ、浜民村の斎藤佐蔵氏(啄木の兄弟分と言われた)との出会いは忘れがたいものとなった。

昭和 29 年 3 月、昭和女子大を卒業した悦子は、帰郷して下北郡内の小・中学に勤務。昭和 50 年夫の死亡により、短歌に没頭。52 年「形成」入会。「形成青森」支部長、加藤武氏等と協力して活動。

平成 6 年大西民子主宰「波濤」に入会。第一同人となる。平成 5 年 10 月、「形成むつ」を「菖苑短歌会」と改題。会員 20 名。毎月第二土曜日に、悦子の主宰で歌会を開催し、合同歌集を発行した。

悦子は「菖苑短歌会」の活動のかたわら、地元FM放送で「短歌のひととき」という番組を担当し、短歌の普及発展に努力した。

1997(平成 9)年 9 月には、これまでの作品を『野にあるやうに』という歌集に集約して、短歌新聞社より上梓した。県歌人懇話会の理事を務めた。

### 3、資料紹介

○歌集『野にあるやうに』

図書

1997(平成 9)年 9 月 17 日

214mm×156mm

序文・渡辺礼子。「寒凍む部屋」(昭和 51 年～56 年)「別れのアーチ」(昭和 57 年～61 年)「雪囲ひ解く」(昭和 62 年～平成 4 年)「野にあるやうに」(平成 5 年～8 年)の作品を掲載。231 ページ、一ページに三首を組み、巻末に作歌動機等が述べられている。